

建設経済常任委員会視察報告書

建設経済常任委員会は、7月30日に静岡県磐田市、7月31日に兵庫県明石市の視察を行う予定としていました。しかしながら、7月30日の午前8時25分ごろ、カムチャッカ半島付近を震源とする地震により、津波警報が発令されたため磐田市への視察を中止いたしました。

2日目の7月31日は、明石市を訪問し、市民の声を反映した駅前再開発について視察しました。

明石市は、兵庫県の中南部、東経135度の日本標準時子午線上に位置することで知られています。また、瀬戸内海に面しており、本州と淡路島を結ぶ明石海峡大橋を眼前に望むことができる風光明媚な地で、東西に細長いまちを形成しています。さらに、市の東側と北側は神戸市と接し、阪神間の都市圏と播磨臨海地域、そして海を隔てて淡路・四国とを結ぶ海陸交通の重要な拠点となっています。

再開発の背景として、明石海峡大橋の開通に伴う海上交通利用者の減少により、駅から港の歩行者通行量の減少、さらに、大型小売店舗が撤退したことによる商業機能の衰退、また、周辺の商店街や商業施設との回遊性も保たれておらず、駅前地区として十分な機能を果たせていない状態でした。何とかしなくてはならないという思いから、明石市の声かけに応じた権利者で構成する「共同化検討会議」が発足し再開発に向けた検討に着手しました。

この再開発事業は、平成22年に大臣認定を受けた「明石市中心市街地活性化基本計画」の中で核的事業として位置づけられており、「人々の暮らしを、海・食・時で彩るまち明石」を前面に掲げ、明石の玄関口にふさわしい顔づくりを行うことを目的としています。

再開発を進める上でアンケート調査や2度のパブリックコメント、市民フォーラム、市政総合懇話会、各地域で市長懇談会を実施し、市民の声に耳を傾けながら、透明性のある手続きを進め、市民がより納得できる再開発事業をされていました。

再開発ビルの構成として、立ち寄りやすい1、2階は、市民広場、飲食・物販・サービス業など、幅広い層をターゲットとした構成をされています。3階にはクリニック施設、美容院など目的性の高い施設を配置、4階から6階には図書館や子ども広場、明石市の総合窓口などの公共施設を設置しています。また、まちの活性化の基盤となる定住人口を拡大するため、住宅を設置しています。

事業の効果の検証として、例えば公共施設では、市役所窓口の取り扱い件数が2倍以上になり、子育て支援施設では日々多くの方が来館されています。また、市民広場では休日に様々なイベントが開催され、駅周辺の人口増加や周辺商店街の活性化などが挙げられます。

最後に委員の所感をご紹介します。

再開発事業によって、訪れる人や利用者が増え、駅周辺や半径1キロメートル圏内

の人口増加に繋がり、新店舗の入れ替えや改装などの経済活動が活性化し賑わいを見せています。まちの評価としても生活に便利となり、街並みもきれいで快適、子育てしやすい等好評な意見が多くあり、本市においても参考にしていきたいと感じました。

今回の視察で現地を見ましたが、行政施設も混在していました。これは民間だけでの開発では破綻するおそれがあることを予想して、行政関係の施設を入れていることは、先見の明があるように感じました。

市街地再開発事業において、パブリックコメントを2回にわたって実施されたこと、そして、アンケート調査をされて事業効果の検証、市民評価を実施されたことに感心いたしました。

以上で付託調査視察報告を終わります。

なお、関係書類は事務局に保管してありますので、御参照いただけたらと思います。